

## 【知事定例記者会見】 2月7日

### <令和4年度に向けた佐賀県の予算案 全体像>

令和4年度の当初予算案と2月補正予算案（国の経済対策関連）の説明をする。2月補正予算案は、当初予算と絡んで13か月で執行する部分を説明する。

### <令和4年度当初予算案 全体像>

「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」が大きな柱。「県民の命を守る」「人の想いに寄り添う」「子育てし大県を推進する」「さかの未来につなげる」を基軸に、社会資本の整備を行う。

ポイントは、引き続きコロナ・災害対策に全力で取り組むこと。佐賀らしく、未来に向けて「人を育む」人づくりに焦点を当てた事業が多い予算になったこと。

- ・産業・福祉の担い手育成：第一次産業や福祉の分野で人材が不足している。
- ・地域づくりは人づくり：人があっての地域。人にスポットを当てていく。
- ・スポーツ・文化の力を活かした人づくり：人に投資する。
- ・子育てし大県・教育県佐賀：合計特殊出生率が高い強みを活かす。教育県佐賀として、骨太の人材を育てる。

令和4年度当初予算額は5,710億5,800万円。前年度当初予算比102.6%。過去最高予算案になった。グラフの網掛けの部分は、コロナ対策分で預託が多い。事業者に融資をするため、銀行に原資を預託している。実額の推移は、色付きの棒グラフのところ。

増要因は、プロジェクトIFや人への投資。SAGA サンライズパークの大型ハード整備はピークを過ぎたが、コロナ対策が加えられ過去最高額の予算になった。

### <県民の命を守る>

#### ● 新型コロナウイルス感染症対策

#### ・医療提供体制の確保（プロジェクトM）

医療機関の病床確保や医療機関と宿泊療養施設間のオペレーション維持、空床補償のため。

#### ・ワクチン接種体制の確保

大規模接種会場を開設予算など、包括支援交付金やコロナ臨時交付金を財源としている。

- 佐賀県内水対策・プロジェクト IF

「人命等を守る」「内水を貯める」「内水を流す」ため、国や市町、地域の皆さん方と取り組む事業。順次、できるところから始めるのが特色。スライドの内水監視カメラ、道路情報版、ダムやクリークの事前放流、ため池の貯留機能向上、切り欠き、排水ポンプ車の導入、河川浚渫などは、着手済みの事業。

- 令和4年度の主な取組

「人命等を守る」：カメラ、センサーの増設、ケーブルテレビで放送する内水監視カメラ設置の推進。

「内水を貯める」：田んぼダムの推進。内水氾濫は川が増水し、ポンプで内水の水を川に送れないことで起きる。川の流れを維持できれば内水氾濫を防ぐことができる。そのため、六角川の上流域の田んぼに一定量の水を貯めることで浸水被害を軽減していく。SAGA アクア 50mプール 200 杯分に相当する。

「内水を流す」：河川の浚渫をさらに進める。特に、大町町下瀉排水機場は、農水省のご理解を得て止水壁を上げることができた。少しでも内水氾濫を防ぎたい。

今年も起きることを前提に準備しておく。

- 地域医療を守るために

医師不足に加え、地域の診療所で医師の高齢化が進行している。そのため、地域の医療体制を確保する仕組みを構築した。モデルケースとして、北波多の唐津市民病院に好生館から医師を派遣し、そこから地域の診療所に医師を派遣する事業を始める。

- 消防団への支援事業

災害時に消防団の活躍がありがたい。佐賀県は消防団の統計が始まって以降、人口当たりの組織率が日本一を続けている。しかし、コロナ禍で集まって活動ができない。そこで、消防団への支援として、部ごとの団員数に応じて、3 万円～25 万円を交付する。用途の制約はしない。コロナ禍でも士気を上げ活動できるよう、県がエールを送る事業。

### <人の想いに寄り添う>

- 誰もが自分らしく、心地よく過ごせる、やさしいまちのスタイル“さがすたいる”

佐賀県では、“さがすたいる”という考え方を標榜している。誰もが自然体で共生できる社会の実現に取り組んでいる。昨年の佐賀さいこうフェスでは、視覚障害、聴覚障害の皆さん方と一緒にコンサートを楽しむプロジェクトや 8 月にはパートナーシップ宣誓制度を導入した。

新年度の事業では、県立図書館に誰もが心地よく利用できる専用ルームを新設する。

大活字本やさわる絵本の整備、談話や飲食ができる、さがすたいるルームの設置など。課題が出れば改善し、楽しめる空間をつくりたい。

- がん患者の気持ちに寄り添います

医療用補正具の購入を支援する。また、ドナーになることへの後押しをする。骨髄移植は、型が一致しても移植に 3 日かかり、仕事を休む不安による辞退が 6 割もある。ドナーへの助成と、雇用主への助成を行なう。行政が主体的に関わることで、骨髄移植をしやすくする。

両事業とも市町と連携して行いたい。

- 県東部地域の特別支援教育環境を充実します

近年、特別支援学校の生徒数は増加している。教育環境を整備するのは、県の大事な責務。閉鎖する九千部学園を改修し、以前から声があがっていた鳥栖に新たな拠点をつくる。障害のある子供たち一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな教育を提供していく。

### <子育てし大県を推進する>

佐賀県は、出会いから子育てまで一貫した支援をする。

「さがウェディングストーリー」は、SNS でも評判がいい。「ママリ」のプロジェクト、若年がん患者への妊孕性支援、新刊児童書を全点購入、県内すべての中学 3 年生へのピロリ菌検査・除去する事業など、ほかにもさまざまな取組がある。

令和 4 年度の新規事業は、LINE を「入り口」とした情報発信を行い、県の取組を活用してもらう事業。

- リアル・さがウェディングストーリーの展開

動画「START in SAGA」は、2 か月で 50 万回再生した。結婚したいのにできない方々の環境を可能な限り整備したい。

県の設備を利用した結婚式の提供。サガン鳥栖のホームゲームで、スタジアム一体となって祝福する。九州佐賀国際空港での結婚式。また、結婚式の前撮り写真を県内のさまざまな場所で撮影するなど、SNS でシェアし祝福しやすい環境を整えていく。

- 不妊治療の保険適用により負担が増える方を支援します

これまでは、国とともに定額で助成してきた。令和 4 年 4 月から不妊治療が保険適用になる。一律 3 割で保険適用されると、場合によって自己負担が増加することがある。その部分を県が独自に支援する事業。

### <さかの未来につなげる>

- SAGA スポーツピラミッド(SSP)構想

SSPを強みに、経済も観光も回す仕掛けを作る。

- 人材育成体制の構築と強化

新年度は、人材育成を強化。「西九州大学と連携したスポーツ医科学・栄養学を導入」「デジタル技術を指導に活用」「ユースチームの指導者を確保」「私立高校へのスポーツ指導者確保」「アスリート寮の運営支援」「新人戦を「SSPシリーズ」として情報発信」で、アスリートと指導者をサポートする。

4月から寮が2つできる。個人で寮や下宿を借りていた県外からのアスリートを支援する。

- 練習・競技環境の充実

市町とともに、県内各地の施設の充実を図っている。新年度は、開放型施設として全国トップレベルの拠点を整備。高校内の施設だが、一般にも開放する。

- ・レスリング場(鳥栖工業高校)

- ・スポーツクライミング競技施設(多久高校)

これまでの予算で取り組んだ伊万里実業高校の公認ホッケー場が、いよいよオープンする。地

域の皆さんにも活用いただきたい。

- 移住支援の対象を全国に拡大します

佐賀県は、移住希望地として注目を集め、国の支援がある東京23区以外からも希望者が多い。地域の担い手になってもらえる人を対象に、全国どこからでも個人は60万円、世帯は100万円を支援する。

- ゆめさが大学卒業生の地域活動を後押しします

ゆめさが大学は、60歳以上を対象にした生涯学習の学校。その学びを地域で活かしたいという声が多い。シニア地域サポーターとして活躍してもらうため、ゆめさがアシストセンター（仮称）を設置し、地域活動の担い手やアドバイザーとして活躍してもらう。

- 小学校4年生の少人数学級を実現します

国の35人少人数学級の実施は、小学校3年生まで。県独自で、小学校4年生も35人学級にする。子供の自我が目覚める多感なときに、少人数化できめ細かな指導を実現する。

- ラストフロンティア・宇宙を佐賀が切り拓く

これまでに、JAXAと連携協定を結び、JAXAGA SCHOOLを創設。宇宙関連産学官と佐賀県事業者が、地域課題の解決に向け動いている。宇宙産業で地方創生と人材育成をしたい。

- ・最先端の宇宙教育で未来の宇宙人材を育成

キューブサット(超小型人工衛星)を開発・運用する。高校生が、自ら活用方法を考え、打ち上げ後に得たデータを使って佐賀にどう貢献できるかを研究する事業。宇宙を意識した人材を育てる。

- ・佐賀県を宇宙ビジネスの実証フィールドに

多様なプレイヤーが共創し、議論が生まれる場を提供する。アイデアを実装するための社会実験。

- さが園芸888運動～稼げる園芸農業へシフトし、新しい佐賀農業を切り拓く～

トレーニングファーム（ほうれんそう、きゅうり、トマト、いちご）では、これまでのノウハウをデータ化し、初心者でも農業が可能になった。

今回は、第5弾 ピーマンのトレーニングファームの整備とキュウリの園芸団地を整備。また、みかん畑を集約し、評判のいい「にじゅうまる」など高品質な農産物産地を育成する。

さらに、大規模経営体をつくりたい。家族経営から法人化へと規模を拡大し、事業集約を図り、働き方改革の方向へ。大規模経営をすることで、利益がでやすい体質に変えていく。

- 林業アカデミーを開校します

初心者が林業アカデミーに入り、勉強し経験を積み専門家になってもらう事業。

現在、ウッドショックで国内の木材価格が高騰し、林業再生のチャンスを迎えている。林業支援の第3弾は、林業就業者の確保。人づくりにも乗り出す事業。

- 西九州新幹線の開業効果を県内全域へ広げます

武雄温泉－長崎間の開業に伴うDCキャンペーンが始まる。新幹線で嬉野温泉、武雄温泉といった、有名温泉に「チョイ旅」を。長崎県をはじめ、九州各地からも集客したい。

また、「OPEN-AIR佐賀」として、自然体験型の事業を組み立て、県内全域を周遊するSAGA周遊プロジェクトを仕掛けたい。

- JR 唐津線・筑肥線全車両を“ロマ佐賀列車”に!!

新幹線の開業に伴い、在来線にも力を入れる。今年が目玉は、JR唐津線全駅舎と唐津線・筑肥線の全列車をロマ佐賀ラッピング。スクウェアエニックスとJRと提携し、全車両を新デザイン化。10月に運行予定。

- 長崎本線沿線地域を全力で支援します

特急の本数が減る鹿島・太良地域へのまちづくり支援。肥前大浦駅、肥前飯田駅のトイレを改修。肥前白石駅と多良駅にWi-Fiを設置する。

スノーピークと連携した吉野ヶ里公園のオープンエア化も進行中。全県に対応できるような周遊プランに結びつけたい。

- 「はじまりの名護屋城。」プロジェクト

“奇跡の見本市”と“はじまり”の地がコンセプト。430年前、名護屋城一帯は、約160もの有力大名が集結する人口20万人超の要塞都市。茶道、能、和歌、華道、陶磁器、仮装大会など、さまざまな文化の結節点だった。

- ・当時を再現する名護屋城大茶会の開催。
- ・黄金の茶室を3月にオープン。加えて草庵茶室を常設化し、セットで体験できるよう研究中。
- ・陣跡に全国の武将をめぐるサインを整備。

名護屋城周辺に歴史上の有名人物が居住していたことがわかる環境整備をする事業。

- さが維新“志”継承建築展開催～近代東京の礎は唐津がつくった

京都から東京に遷都する際、大木喬任と江藤新平が建白書を作成。大隈重信は鉄道建設、大木喬任の東京都知事就任。東京は、佐賀なしに語れない。

同時期、唐津出身の建築家が東京で活躍。東京駅を設計した辰野金吾、東京の丸の内の煉瓦街を設計した曾禰達蔵、赤坂離宮を設計・改装した村野藤吾。県内では、辰野金吾は武雄の楼門を建設、曾禰達蔵は唐津の歴史民俗資料館を設計、村野藤吾は大和の県教育センターレナセルを設計した。

明治維新时期、佐賀を愛し、東京で活躍した3人の建築家に焦点を当てた展示会を県立博物館で開催する。

- 無人駅“まち駅”づくり化プロジェクト

県内の駅の約7割が無人駅。駅をまちづくりの拠点として使うことで、安全面、防犯面での不安を解消する。上有田の駅カフェ、NPOの活動拠点、厳木のマルシェなどがいい例。市町の“まち駅”づくりに、県が1/2を支援する。各地域、住民の皆さんと考えていただくきっかけに。

- 少人数・高付加価値の旅行スタイルへの転換を加速化します

団体旅行の衰退やコロナ禍で、旅行形態がFIT（個人での海外旅行）に移行。ニーズに合わせた設備の改装や体験型コンテンツの充実に加え、観光素材の収益化に向けた有料化アプリの開発などの仕組みづくりが必要。コロナの交付金を活用し支援する。

- 更に高まるポテンシャル 伊万里港の飛躍につなげます

今年は、伊万里港が飛躍する。コロナ禍でも物流は影響を受けていない。むしろ、コンテナが足りないほど。今年は、七ツ島への臨港道路が完成、西九州道も延伸しアクセスがよくなる。

10 月には、ガントリークレーンが2基体制になる。さらに、バックヤードのクレーンを増設し、伊万里港の揚力を強くする。

今回の事業は、直行便を持つ他港との海上運賃の差額を助成する。現在、東南アジアへの直行便がない。そのため、途中で船を変えている。その海上運賃の差額を伊万里市とともに助成し、荷物を確保できるよう予算を組む。伊万里港の飛躍につなげたい。

- 佐賀大学との連携をシフトチェンジ! ~TSUNAGI プロジェクト~

これまで佐賀大学とは、二枚貝の資源回復、害虫に強い稲の育成などの共同研究を連携していた。これからは、Society5.0 時代に対応した地域課題の解決をすべきと考えた。

AI 眼鏡で農作物の収穫どきがわかる、ビッグデータ解析で地滑りを早期に検知できるシステム、SAGA2024に向けて AI を駆使した新たなスポーツ観戦の開発など産学官の連携に取り組むことにした。発表や展示会を開催し、研究を実践化する。社会の実装化を目指す。

- 夢や感動を生み出す「さが躍動」のエリアへ!

ペDESTリアンデッキも造られ、外観が完成に近づいてきた。アクアは県民の活用が増え、日本代表やトップ選手も集うようになってきた。SAGA アリーナは、AI 対応の最先端の技術を試す実証フィールドにしたい。

新年度は、県内の小学5年生全員に、今しか見ることのできない建設現場を体験してほしい。

- SAGA サンライズパークをデジタルの実証フィールドに

実測+AI を用いたスポーツ適性検査で 80 種目から適性を提案するコーナーや MR キャラクターによる案内、自動運転モビリティによる移動を実現する実証フィールドにしたい。

さらに、トイレや駐車場の混雑状況がわかるアプリの開発を予定している。サンライズパークは、男女のトイレの仕切りが変えられ、催し物によってトイレの男女比率が変えられる。

AI によるスポーツハイライトの自動編集の実証も。5G、6Gの実証拠点にしたい。

- さがを支える社会資本の整備



令和4年度は、有明海沿岸道路の大川佐賀道路の工事進む。嘉瀬 IC から北の佐賀道路に予算がつき、工事が進めば、有明海沿岸道路の T ゾーンジャンクションの形が見えてくる。ここがつながると、北への利便性がよくなる。

さらに、伊万里港、城原川ダム、味坂スマートインターチェンジは福岡県と連携しながら進んでいる。生活に身近な道路も着工、供用開始を待つばかり。社会資本整備を整えていく。

## <2月補正予算案(国の経済対策関連)>

2月補正全体は、約 34 億円の減額補正になる。今日は、来年度にかけて執行していく国の経済対策関連の約 187 億円の説明をする。

### ● 令和3年8月豪雨災害対策

今回の補正は、防水壁、ピロティ化に対し、補助率 1/4、上限 1,000 万円を支援。対象は、市町から補助を受けている者。また、復旧・復興にとどまらないものに対し支援していく。

伝統産業に、補助率 1/2、上限 2,000 万円を支援する。伝統産業は、一度途絶えると再興が難しいので手厚く支援する。

### ● アフターコロナを見据え新たな発想で事業の“変革”に挑む企業を支援

以前からあったチャレンジ補助金。評判がよく、予算枠以上の応募があった。キッチンカーの導入、通販サイト立ち上げなど。

2月補正では、1事業所につき 50 万円~200 万円、補助率 2/3 以内を支援する。今回は、SDGs 対応も対象に追加。コロナ禍でも、前向きな事業者を支援したい。

### ● OPEN-AIR 佐賀の推進

波戸岬のキャンプ場を民間事業者と協調したのは成功だった。利用者は 5 倍、収入は 10 倍に増えた。ルールを作り、民間を活用し成果が上がることは大事。多くの事業者が参加してほしい。

北山キャンプ場も Re ブランディングし、オートサイト化、ビュースポット整備、多彩な体験ができるようリニューアルする。アウトドアスポットが生まれ変わる。

### ● その他経済対策の主なもの

- ・ 佐賀県高性能食肉センターの整備
- ・ 県版 GOTO トラベルの予算化
- ・ 農林業の施設整備
- ・ 農業大学校牛畜舎の整備
- ・ 原油価格高騰への対応

特に、漁船の船底についた貝の除去費用や燃料消費の削減に向けた支援をする予算。

その他、社会資本整備などに 28.6 億円。

人づくり、担い手づくりに焦点を当てた事業が多い。多様化して変化している時代だからこそ、改めて人を大切に、人に投資をしていくことを選んだ。世界に誇れる佐賀の時代をつくりたい。